

築理会報 98秋号

1998年9月発行 Vol.23

発行所：東京都新宿区神楽坂1-3

東京理科大学工学部 ・ 部建築学科

築理会事務局 03-3260-4271(内3293)

03-3235-6897(FAX)

特集 築理会はどこへゆく

築理会運営が新体制となり、4年目も半ばを過ぎようとしています。これまで会員の皆様のご協力もあり、活動も活発化し軌道に乗ってきました。しかし一方で活動の定常化が、会全体の惰性を産み出しつつあることも事実です。そこで今後の展望を図る為にもこれまで運営に直接携わってきた常任幹事の方々に現状の築理会に感ずるところを座談会の形で話し合ってもらいました。

(司会進行は築理会副会長、坂下誠氏)

今日は築理会の事務局長、各委員会の責任者の方たちに集ってもらいました。まずは、座談会を企画した会報委員会の伊谷さんの方から趣旨をご説明いただきたいと思います。

伊谷 築理会の運営組織を拡大し、OBが中心となった活動を始めて3年以上になります。各委員会の活動の成果は上がっている一方、常任幹事会などをはじめ問題点も出てきていると思います。今後も運営していくサイドから一般会員の皆さんに向けて、現状の課題を提示しようとの目的で、この座談会を企画しました。

まずは、各委員会の現状の問題点を挙げていただきたいと思います。

大岩 私は企画・総務委員会のメンバーでもありますが、事務局長として発言させていただきます。築理会の活性化を始めて4年目となるのですが、一般会員への浸透の面から、かなり問題点が出てきています。具体的には会費の納入状況が悪くなってきたということです。築理会そのものが曲がり角にさしかかったとも言えるでしょう。

河合 事業委員会では色々な問題が出てきています。まず、研究セミナーについては、平均で30～50人が出席しているのですが、卒業生の数と比較して多いか少ないかです。あくまで東京地区が中心で全国規模にはできない。そのため、インターネットを導入して、全会員へ通達したいと考え、築理会のホームページをつくりました。また、出席者数を増やしたい



会長 八木嘉也氏 (-3)

と、土曜日に開催するなど、試行錯誤しています。一方、現場見学会についても参加者数の問題があります。平日の勤務時間中だと、参加しづらいため、実施曜日を考えていけないといけません。

田中 名簿は、言ってみればOBとOBとをつなぐパイプ役です。会員が唯一取り付くところとも言えるでしょう。

そのため、それなりに間違いなく、データを定期的に更新する必要があります。また会員が4000人を超えたため、安全面から担当者やデータがコロコロと移動するのは問題がもたせません。会報みたいに創造的な要素は必要ありませんが、常にデータの更新をしていなくてはならない。その意味からは、簡単に交代しにくいという問題が出てきています。

城島 情報委員会は、築理会ホームページの企画・作成を主な業務とする新しい委員会です。インターネットによる新しいメディアを活用して、築理会の活動状況や会員に対するサービスを展開していきたいです。まだ、新しい委員会なので本格的な活動には至っていませんが、早く軌道に乗るように努力しているところです(ただいま、情報委員会の委員を募集中です)。

八木 築理会活動は各委員会委員長を中心に活発な活動をしていただいて、それなりの成果をあげており感謝しています。常任幹事を中心に、忙しい中をボランティアで活動しているため、少しでも多くの一般会員の皆様が交代で活動に参加していただけるようにするのが今後の課題です。

委員会同士のつながりも大切かと思いますが、こうした面から何か問題はありますか。

田中 名簿委員会では、各委員会の要請に応じて色々なサービスができるように努力しています。

河合 事業委員会が催す各イベントは、会報が発行されるタイミングをみたくてセッティングするようにしています。縦・横の連絡をよくすることが大切ですが、常任幹事の数を増やして対応していけばよいと思います。

城島 情報委員会は各委員会から催し物や連絡事項があったら、築理会ホームページに掲載していく体制を整えています。今年いっぱいテスト運用を行って、来年から本格運用を推進して行くよう準備を進めています。



事務局長 大岩昭之氏 (-3)

これまで発言してもらった内容は、各委員会内の問題と対一般会員という面での問題とに分けられます。なかでも一般会員への浸透という問題は大きいと思いますが、これについてはどう展望されていますか。

大岩 研究セミナーにしても関係者がお願いして出席者数を確保している。会報だけを見て集まってくれるOBはわずかだと思います。委員会で一生懸命やっている割には一般会員にこっちを向いてもらえない。非常に難しい問題ですね。

伊谷 会報委員会単独の問題というより各委員会に共通した問題だと思うのですが、一般会員からのリアクションがないということがあります。今の会報は、会員の近況報告に毛がはえた程度の内容です。こうした内容でいいのか、何を伝えるべきかとよく考えます。例えば、現状の建築学科の姿を伝えてもよいのではないかと。こう思うのは大学自体から築理会が遊離してしまっていると感じるからです。社会人となった卒業生が集まっているにしても、大学の後ろ盾が必要ではないか。これがリアクションがない要因になっているのではないかと感じる。今までは活動を軌道に乗せるのにベストを尽くしてきたが、マンネリ化はまずい。これからは、違った視点が必要だと考えます。

大岩 築理会の会報では大学に関する話題が少なすぎると感じています。例えば、高校の同窓会の場合を考えても、学校の内部のことがもっと書かれている。そういった面から、大学と離れすぎていると言えるかもしれません。学内のことを取り入れていった方がいいでしょう。

河合 私も確かに大学から遊離していると感じています。研究セミナーでも、学外の講師を招こうという意見がある。築理会とは、そもそも先生と卒業生のための会です。大学と密接な関係がある方がいいと思って、なるべく学内の先生に講師をお願いしたいと思う。一步譲って、OBが講師になることもあり得るとは考えますが……。外部のある団体がやっているようなセミナーのように、するつもりはないですね。1期生が現在55～56歳です。卒業したばかりのOBが23歳ですから、会員の平均年齢は約40歳になると思います。つまり4000人の会員のうち半数が40歳以上になるということです。世の中の中堅と呼ばれる層がこれほど多いわけ



事業委員長 河合康夫氏 (- 8)

です。今後、同窓会の価値を感じてくる人が大半になっていく。母校の建築学科に多くが目を向ける時期となっているはずですが。しかしセミナーでは30～50人の参加しかありません。また総会にしても盛況とは言えない。どこに問題があるのか考えあぐねています。

田中 会員の気質を見ると、会員同士のかかわりに目を向けようという人は少ないように感じます。しかし、新任の先生からは、実務上活躍しているOBも多く「この人も卒業生でしたか」などの話をよく聞きます。しかし、理科大のOB同士で徒党を組んでやっていこうということは少ない。こういう体質の中で築理会を運営していかなければならないわけです。



名簿委員長 田中治氏 (- 11)

伊谷 会員の平均年齢が約40歳だとすれば、私達はそれより下ですからまだ築理会の重要性は実感できない年かもしれません。田中さんがいのように体質的な問題は分かります。素朴な疑問として、なぜ大学ともっと関係をもてないのかと感じています。事業委員会では積極的にやられているようですが、会報でももっと先生を引っ張り出していい。本当なら我々、常任幹事会自体が先生を引っ張り出す組織であっていいと思います。現役の学生、卒業したてのOBとコミュニケーションをとる機会にも成りうるでしょう。また新たな視点として、常任幹事の顔ぶれが変わるだけでなく、理工学部とのジョイントの可能性も模索していいのではないのでしょうか。

八木 同窓会の性格上、卒業生は自動的に会員になるわけですから、築理会はそれぞれの会員と母校とのつながりを保つための存在でなければなりません。自分の出た研究室があるときは研究室単位でつながりますが、研究室がなくなると学校と疎遠になりがちで、そんな時、築理会が役に立てればと思います。理科大の卒業生の性格として独立独歩の気風があり、それが世の中で活躍し評価されているところもありますが、同じ大学に学んだ仲間としての共通項をもってコミュニケーションをとることも必要ではないのでしょうか。そのために築理会を活用してもらえるような施策を打ちたいと思います。例えば、気楽に参加できる会合を開こうという仕掛けを持った人を、築理会が応援したり、地方での会合なども将来的には、ぜひ応援したいと思っています。現在でも、仙台や広島、九州、大阪で会合が開かれています。

他の大学は知らない同士でもすぐまとまるようですが、我々はそうでもない。唯一つながりがあるのは研究室や同級生の間です。それを超えてまとまろうという、やはり常任幹事会がいい場になると思います。常任幹事の意義を皆さんはどう考えられていますか。

大岩 常任幹事会がまた来たいという会になっていけば、外にも浸透していくと思います。特定のメンバーしかいつも来ないのでは仕方ないでしょう。常任幹事会という身近なところから魅力あるものに

変えていくことが必要です。

河合 築理会を運営していくうえで、規模的に考えても、常任幹事会が中心になるべきだと思います。学閥をつくろうとかしているわけでもないのになぜまとまらないかが疑問です。ある大学のOB会では、建築学会の全国大会に合わせて打ち上げをしているそうです。こうしたことを築理会でやろうという意識はありません。求心力がないわけです。その点を踏まえて常任幹事会が盛り上げていかなければならないと思います。

田中 理科大のOBの体質は一人だまじめにやっというふうなものです。求心力に頼らずやっというふうなことが必要だと私は考えます。

伊谷 難しいのは、会員が共有しているのは、神楽坂の空間でしかないということです。今年の総会に微積分の教官である平川先生がお見えになった。平川先生には痛い目があった年代は多いはずですが。しかし、総会では多くの人が平川先生に集まっていた。こうしたことを見て、ささいなことでも年代に左右されず共有するものがあることが必要だと感じました。常任幹事会は規模的に見て、十分推進力となりうる存在です。ただ神的とは言わないが、何か求心力となりうる仕組みがほしい。これまで各委員会で培ってきたものは、継続させていかなければならない。一方で、会自体の刷新を図る為にも常任幹事のメンバーは3年ごとに半数が入れ替わるようにすることも一つの手だと考えます。つまり、築理会の運営を知る人が一人でも多くなるべきだと思うのです。地道なやり方が一般会員にも浸透していく手だと考えます。

会報を出してもリアクションがない。このような状況のなかで、新たな幹事に手を挙げようという人はいるのでしょうか。

伊谷 確かにそうですね。自分の代で言えば、私がこれまで幹事をやってきた。しかし、別の人を務めてもらわなければ常任幹事会も変わっていかないと考えます。前の幹事から依頼されたら、交代で務めていかなければならないことを理解してもらいたいですね。

先ほど理工学部との交流をとの話も出ましたが、その辺の状況は実際どうなっているのでしょうか。



会報委員長 伊谷峰氏 (-21)

大岩 はっきりは分かりませんが、理工学部でもやっというOB会としての形が見えてきたところだと思います。その形が整ってきたら一緒にやろうとの話もあります。将来的には交流は可能でしょうが、今は時期尚早と言えるでしょう。

各委員会の活動は活発化

していると言えるでしょう。しかし、全体の方向性を話し合う場がこれまでありませんでした。こうした方向付けはどのように考えていくべきでしょうか。

大岩 やはり、常任幹事会の中で話し合っていくべきことだと考えます。総会は形式的なものですから、常任幹事会が担うべきです。そういった意味からもこの会がある程度の実力をつける必要があります。卒業すれば何割かの方が会費を払ってくれる、というようになればいい。しかし、現状では力がないから無理です。

河合 そのためには一人ひとりの卒業生がどう築理会を利用できるかが問題になってきます。名簿も毎年作成し、会報も年4回発行してきた。それでも会費の納入率が低いということは会員の意識が低いということです。しかし、これは築理会の中の話であって、ほかのOB組織を見れば決して悪い状況ではないとは言えると思います。その中で会員の意識を高めるには、それぞれの会員にどんなメリットがあるかを追求しなければなりません。そのきっかけとしてインターネットの価値は大きいでしょう。築理会のホームページも作成し、多元的に会員が利用できるように準備しています。これからは、ギブ・アンド・テイクになり、会員同士が会話できるようになる。これまでとは違った意識が会員の中に芽生え、相互の交流が出てくると考えます。

城島 ホームページはしばらくの間は、築理会からの連絡事項を掲示する予定ですが、来年の早い時機には、会員参加型のホームページへと発展させて行きたいと考えています。どこまでインターネットの効用があるのかは未知数ではありますが、これによる会員増強に期待をしているところです。

田中 我々の大学には各分野で第一線の知識を持った教官たちばかりです。実際、相談に訪れる人もいるわけで、すぐに答えを得たりネットワークが利用できるわけです。自分が巣立ったところがここにあるという忘れずに、いざというとき利用してもらえばいい。卒業生が困った時に築理会がよりどころになればいい。その時のために築理会の看板だけは下げないでほしいと思いますね。

伊谷 会報委員はOBに寄稿してもらうために頭を下げているのが実情です。今後は会報に記事を書かせてもらうという意識をもってもらうことが理想です。しかし、築理会自体が利益を上げたり、社会活動をしていこうという組織ではないため、ぼんやりとした受け皿程度にしかになっていない。今後は、一人ひとりにとってどんなメリットがあるか、明確にしていくのが常任幹事会の役割と言えるでしょう。



副会長 坂下誠氏 (-1)

そういった意味からも我々は捨て石となるべきです。今後は短期的なマイルストーンを設定していくべきだと思います。

大岩 4年ほど前に築理会の活性化を始めた時は会費収入として294万円ありました。その翌年の96年に会費を払った人は460人、97年は464人でした。ところが今のところ、今年は前年より100人以上減っている。手持ちの資金も最も少ないという状況で、なぜなのと真剣に考えないとまずい。そうしないと活動も滞ってしまいます。卒業して10年弱が経過した期では、一人しか払っていないという状況も見られます。

納入率を上げるには、どういう対策が考えられるのでしょうか。

大岩 現状の年間5000円という額は高いかもしれない。名簿の代金を別扱いにすることも一つの手でしょう。現在は会費を払った会員にだけ名簿を送っています。今年200部程度、余裕の部数があったので会費を払っていない会員のうち特定の人にそれを送付したところ、うち約1割の21人が会費を払い込んでくれました。これはあまりよい状況とは言えません。名簿もすべての人が毎年ほしいというわけではないでしょう。

アンケートで一般会員に適性額を聞いてみるのも一つの手ですね。

伊谷 建築学会のように正会員と準会員を分けるというやり方も考えられますよね。名簿は基準として、そこに特典として会報を付けるなど。ホームページのある一定ページを有料化し、パスワードを会員が買うという方法も考えられる。パスワードは500円でも1000円でも構わないと思いますが。

河合 現状のようにセミナーがいくら、会費がいくらというやり方だと、築理会はお金がかかるものとの意識を会員に植え付けかねない。額を下げることによって会費を払う人も、セミナーに参加する人も増えればよい。また、総会も参加費を安くして、卒業したての人が参加しやすくするようにした方がよいと思います。さらに、セミナーについては無料のものも多くしていった方がよいでしょう。これまで築理会の会員相互の交流は少なかった。会報においても、寄稿した会員にアクセスできるようメールアドレスを掲載してもいいと思います。とにかく、交流ができるよう取りかかりをお膳立てしていく。そうしたことによって築理会もいい方向に進んでいくと考えます。

城島 築理会に所属していることで、何らかのメリットがあれば会費5000円でもかまわないと思います。同窓会の人脈を活用してビジネスチャ

ンスを広げるきっかけになることもあります。「理会で広げる人脈の輪」をキャッチフレーズに、築理会への参加を浸透させて行きたいです。

田中 データからみる限り払ってくれる人は払ってくれるし、払ってくれない人はいくら言っても払わない傾向があります。こうした不況のご時世に、これだけ払ってくれる人がいればいい方だとも考えることはできます。

大岩 会費の値下げなどは、現状打破の一つの方法として有効だと思います。それについては会則を見直していくことが必要です。理科大の学科でOB会組織を持っているところは少なく、一般的に見れば活動についてもよくやっていると言えるでしょう。今後はもう少し一般会員との距離を縮めていくことができればいい。そこをクリアできれば前進すると思います。例えば、内部に趣味の会をつくるもいいでしょう。建築以外のことで、皆が集まる場をつくってあげれば、一つのきっかけになると思います。

城島 築理会アマチュア無線倶楽部とか築理会将棋部などですね(笑)。それだったら週に1回は大学(築理会)に足を運ぶかもしれません。ホームページ作成講座なんかを築理会で主催してみたいかがでしょうか？

伊谷 この座談会をもとに、会員の意見を集約するためのアンケートを実施したいと思います。今後は引き続き、インターネットで継続的に会員の声を拾ってあげればよいとも考えています。

八木 同窓会である築理会はいくまで会員のための会で、特定の人に利用される会であってはなりません。会の役員は会の発展と会員のために会を存続するための奉仕者であってほしいと願っています。会としては年数が浅いだけに、まだ現役として活躍をしている1期生を中心に活動し、会を運営する幹事会には各期から積極的に参加してもらいたいですね。会員の関心と呼ぶためには、各業種別に代表世話人的幹事を作り、こういう方々に幹事会に参加して頂くのも、一つの方法でしょう。会員の皆様には是非交代で半年でも1年でも幹事をしていただきたいと思っています。それとは別に縦と横の連携をとれるように地域や職場での会、同期会などをそれぞれの中で開催していただき、それらの活動を通して、築理会が一つにまとまればと思っています。

4年近くを再建築理会として活動してきたので、その成果を問うためにも前回と同様に会員にアンケートをとって今後の活動の方向を見極めたいと思います。

理科大の卒業生としての誇りを持ち、同窓生のつながりを深くできる体制に築理会がなるために皆さんの関心とご協力をお願いするところです。

(1998年9月9日理科大9号館・会議室にて)



情報委員長 城島匡人氏 (-15)

平城宮朱雀門復原工事の特記事項

春日井 道彦

財団法人文化財建造物保存技術協会

朱雀門は平城宮南面の中央に南面して建つ、桁行85尺、梁間34尺、高さ68.55尺(基壇礎石上より大棟雁振瓦上)、入母屋造、本瓦葺の5間3戸の二重門である(尺はすべて古平城尺、1尺=295mm)、直径707mm、長さ5310mmの内地産檜の柱材をはじめとする約1000m³の木材を使い、4万枚近い瓦を葺き上げ、36億円の費用を投じ、5カ年度をかけて完成した。工事が始まるまでには、30余年の研究の積み重ねがある。集成材や鉄骨を用いての架構の検討もされたが、柱や隅木・大斗といった大径木材が確保できる見通しがついた時点で、純木造建築として復原を行うことに踏み切った。と、これが朱雀門のおきまりの解説である。ここではこの復原朱雀門を見ただけでは気づきにくいところをいくつかいつまんで紹介してみたい。

その1 隅延び 古くから残る木造建築を見て歩くと、軒先が隅にいくにつれて反り上がっているのに気がつく。そしてこの反りが建物の美しさにとって重要な要素であることは多くの人が知っているところである。この反りをつくるため近世では桁の成を隅にいくにしたがって大きくするといった方法が採られた。しかし、古代から中世にかけては桁の成などは増えずに柱の長さをおぼすことでこの反りをつくる技術があった。この手法を「隅延び」という。しかしこの「隅延び」なる工法は、実際に設計すると非常にやっかいな点が多いことに気がつく。今回の復原においてもまさにその通りであった。細かい解説はいづれ発行される報告書に譲るとして、朱雀門では、中央扉の両脇(振分け)の柱を基準0とし、その両脇の柱を4分(12mm)、隅の柱を1寸6分(48mm)延ばす「隅延び」を実施した。棟通りは側の基準柱よりも基礎を1寸6分高く据えることで、柱の長さは同じでも柱下端で高くなるよう設計した。また棟通りの両端(妻柱)は基準柱よりも4分高くなるように(振分け)両脇の柱と同じ天端高さ設計した。この隅延びにより、古代建築特有の緩やかな軒反りをつくり出している。

その2 上げ越し 木造建築は年を経るにしたがって少しずつその形が変形する。特に軒の深い建物については瓦の重量や木材の乾燥収縮によって軒がだんだん下がってくるのが通例である。しかもそれは瓦を葺いた直後の工事中から起こる。そこで、あらかじめ下がることを考慮して、設計値よりもやや高めに丸桁などを据える場合がある。これを「上げ越し」と呼ぶ。普通は大工棟梁の手腕によるところだが、今回は丸桁天端で6分(18mm)あげるように尾垂木先の巻斗の敷面高さなどを調整した。

その3 継手・仕口 奈良時代には長尺材もかなり使われたと考えられるが、復原では一間材(5~7m材)を使うのが精一杯であったため柱上で継手・仕口が重なる。そのため古代建築には見られない継手・仕口を用いざるを得なかった。そんな中でもできるだけ中世・近世に使われた伝統技法で対処し、更にステンレス板による補強も取り込んだ。

その4 本瓦葺 朱雀門をつくっていく中で、古代はどうかあったかを考えさせられたいくつかのうち、唯一当初のモノが残っているながらわからない技術が本瓦葺についてであった。瓦葺きは今も綿々と伝わる在来工法であるが、その内容は棧瓦などの簡略瓦へと主流が移り、本瓦葺自身も変化してきており、古代を伝えるものは遺構から見つかった出土瓦のみである。そこで朱雀門では一体どう考えたか。

復原朱雀門の屋根で最も目を惹くのは何といっても大棟両端を飾る鴟尾であろう。しかし、平城宮からは瓦製はおろか、鴟尾のシの字も見つからない。とはいえ古代寺院の金堂などが鴟尾で飾られ

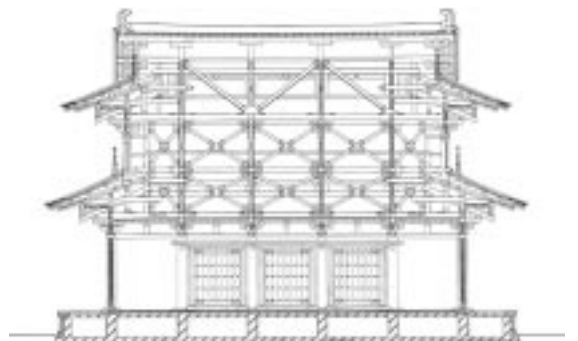
ていたのは唐招提寺金堂などからも明らかであるし、平城宮跡から出土した鬼瓦には朱雀門の棟にのせるような大きなものがないことから鴟尾が飾られていた可能性が大きい。そこで朱雀門では青銅鋳物製金箔押し仕上げの鴟尾をつくった。都移りのときには多くの部材が次の都に送られたようなので、青銅製品をそのまま持っていけば欠片も残らないと考えたのである。実際製作した鴟尾は高さ1.35m、一体で361kg。頂部には拒鴿子(きょじやくし)と呼ぶ棒をたてる。この根拠は難波宮の発掘品による。棟を飾ったその姿の金色に輝くさまは、当時の朝廷の威厳を表すかのようなのである。鴟尾側面からは降棟がおりてくる。降棟の先は鬼の全身像を描いた鬼瓦で飾るが、この鬼瓦は丸瓦を跨いで据えてある。在来では丸と丸に渡して据えるのが常識となっているが、朱雀門では鬼瓦の又繰りに着目し、本来の据え位置を丸瓦上と考えたのである。もうひとつ在来工法と違うのが隅棟の鬼瓦の位置であった。在来では隅から1本目の軒丸瓦の交点に隅棟の鬼瓦を据えるが、古代では3本目に据えていたと考えられている(海龍王寺五重小塔)。朱雀門では隅の鬼瓦を少しでも大きく見せるために2本目に据えている。

その5 装飾金物 風鐸は四天王寺出土品を模した。風の強い日「ガラ、ガラ」と音をたてる。この音はあまり評判が良くない。音から平城の都へ空想の翼を広げることは難しいようだ。破風の拝みや隅木・尾垂木の木口には薬師寺出土品を模して金具をつかった。垂木の木口は金具を表現する黄土を塗った。こういった装飾金具がひとつも平城から見つかっていないことが、残念でもあり、疑問でもある。

その6 構造補強 奈良時代の大型建築は現行の建築基準法では建設大臣が現行の基準に見合うと判断してくれなければ建てることのできない建築物である(建基法38条)。そこで朱雀門には二つの構造補強がなされた。一つは小屋内筋違。古代建築独特の小屋内の大空間に筋違を縦横に配置した。もう一つが積層壁の採用。在来の土壁では地震時の水平力に対応できないということ、木を埋め込んだ格子組状の木造壁を基壇のコンクリートスラブにアンカーをとったプレート上に組み立てていくというものである。この構造補強の他にも従来からある工法(枯木の挿入、貫の採用など)を取り込んでしっかりした軸組を実現しようとしている。

以上トピック的な話になったが、朱雀門の復原が単なる古代建築の寄せ集めではなく、ひとつひとつの復原行為に意味付けをしていかなければならないことを少しでもわかっていただければと思う。

平城宮朱雀門が平城の地に蘇ってからすでに5ヶ月が過ぎ、朱雀門は確かにその壮大な姿で奈良の都の栄華を平成の人々に昼に夜に物語っているかのようである。しかし奈良時代の朱雀門とはどれだけ違うのだろうか。この復原によって「わからないこと」がより鮮明になったことは紛れもない事実である。古代日本の研究がこれを契機に益々盛んに押し進められることを祈念してやまない。



ぐるめチクリ

今回は趣向を変えて、グルメ特集をしてみました。いずれも実際の食体験によるものですので、かなり信用していいと思います。是非、味わってみてください。

京都

天下一品総本店 <ラーメン>
京都市左京区一乗寺築田町94

言わずと知れた天下一品ですが、味・値段ともこの本店でなければ納得できません。鶏ガラスープですがそのこってり具合はスープに箸が立った、という伝説があるぐらいです。今でも本店だけは学割がきくと思います。京都各所、歌舞伎町、五反田、池尻大橋に支店あり。

関連HP . http://www.ny.airnet.ne.jp/jumbo/html/index_master.htm

ますたに <ラーメン>
京都市左京区北白川久保田町26

京都ラーメンの代表です。鶏ガラ+とんこつスープのこってり系です。厨房の中はおばちゃんばかりですが人知れず旦那がいます。下記の實徳とすぐ近くなので行ってみてください。

東京日本橋、三田にも支店ありますが、本店のようなコクが全くありません。

関連HP . http://www.ny.airnet.ne.jp/jumbo/html/index_master.htm

天天有 <ラーメン>
京都市左京区一乗寺西杉の宮町49

こってりのとんこつスープです。最近行ってないのでわかりませんが、高校時代はよく行きました。

関連HP . http://www.ny.airnet.ne.jp/jumbo/html/index_master.htm

實徳 <蕎麦>
京都市左京区北白川久保田町57-5

戸隠そばです。夏でも新蕎麦を使っているのか、蕎麦が緑がかっており大変美味です。東京の藪蕎麦や砂場を食べなれている人にはたれが薄く感じられるかも知れませんが確実に蕎麦の味がします。お勧めです。

グリルおおつか <洋食>
京都市左京区下鴨神殿町あたり

伊丹十三の「タンポポ」という映画の中に出てきた、ナイフを背に入れると半熟の卵があふれ出てくるオムライス(ただしこれはメニューにないので別注文してね)で有名なお店。店のオヤジが面白く、「東京から来るお客さんは私のことをオムライス屋だと思っている」というのが彼の悩みです。是非、奮発してステーキを食べてあげてください(先日ステーキを注文したところ、本来150グラム/一人前のところを「間違えた」といって200グラム出してくれました。本当は間違えたというのうそだと思う) 席数が少ないため予約した方がベター。

下鴨茶寮 <懐石>
京都市左京区下鴨宮河町あたり

祇園近辺にも懐石料理屋はたくさんありますが、料理人の引き抜きで店の浮き沈みがとても激しく、その中で安定して美味しいのはここです。10,000円/一人以上しますが、その価値はあります。月ごとに料理内容が変わりますが、秋は丹波の松茸です。10,11月あたりに京都へ行く人は寄ってみてください。要予約。

三嶋亭 <すき焼き>
京都市中京区、三条通と寺町通の交差点角

すき焼きを外食するのはばかげているのですが、肉は松阪牛を使い、建屋も相当旧く価値があるものなのでお勧めします。ここも10,000円/一人以上しますが、その価値はあります。店先で肉屋もやっています。

大阪

十八番(おはこ) <たこ焼>
御堂筋線西中島南方駅・阪急京都線南方駅前

たかがたこ焼ですが、一日中近所の人達で客足が絶えません。博多の人はおやつにラーメンを食べますが、大阪の人のおやつはたこ焼だと実感できる店です。生地には大量の牛乳と天かすを使用しており、自然な甘さとサクッとした歯ごたえがたまりません。美人の若い店員さんがいますが、店のオーナーの娘さんなのであまり失礼のないように...

明治軒 <カレーライス>
大阪市、船場の問屋街の地下街のどこか

カレーに生卵を落として食べるのは大阪人というのはなしや光景を見てばかりにしたことがある人もいますが、その生卵落しの発祥と思われるお店です。大阪人の飽くなき味の探求を甘く見てはいけないこの一軒です。

カンティーナ <イタリア料理>
大阪市北区、曾根崎花月梅田シアター近く

オーナーが東京のサバティーニ出身のイタリア料理屋。とにかく安く美味しいの一言です。お店の方針でガイドブック等には一切掲載されていませんが、口コミのみでいつも店内は満員です。

蓬萊 <豚まん>
いろんなところ

持ち帰りの豚まん、シューマイ、アイスクリームのお店。大阪で肉まんと言っではいけないのは、このCMの影響が大きいと思います。

<串カツ>
西成区通天閣のお膝元、じゃんじゃん横丁

店の名前はわかりませんが、いっぱいあるので適当に選んでみてください。ソースはカウンターに置かれていますが、二度付け禁止は常識です。昔は家なしおっちゃんの大コロニーだったのですがNHK「ふたりっ」のおかげでずいぶん行きやすくなったとは思いますが、ある種の緊迫感はなくなったと思います。

福岡

ふくちゃん <ラーメン>

福岡市早良区田隈2-24-2

博多ラーメンの中では数少ない醤油ダレを使ったとんこつスープです。かなりこってりしており、長浜ラーメンのような淡白さはありません。場所はとてわかりにくいところです。天神からはバスで行けるはずです。

東洋軒 <ラーメン>

北九州市小倉、モノレールで小倉から2,3駅行った競輪場のある駅

小倉駅の観光センターの女性に「地元の人しか行かないお店教えて」と言って教えてもらった店。とんこつのかってりスープで大変美味しいのですが、場所柄少し怖目のお客さんが多いです。店のオヤジは何度も注文を忘れ、その度に「ごめん」を連発する人のよさそうなオヤジです。店の奥にはスープ作りのスペースがとってあり、こだわりの感じさせます。磯崎さんの図書館を見に行くついでにお立ち寄りください。

カサーレ <イタリア料理>

早良区西新1-1-18 / 092-843-9395

先述のカンティーナ(大阪)と双壁かそれ以上かもしれないイタリア料理。御夫婦+ でやられているお店で博多の市街地からは離れていますがこの場所でもう17年もやられてるそうです。おすすめは、うにソースの Pasta、手打ちの Pasta、アンティパスタも美味しいと思ったのはここがはじめてです。海の幸も新鮮で調理方法も絶妙です。博多のお店に共通しているのは、お店の人がとても親切な人が多く、オーダーの相談にも気軽に乗ってくれます。勿論、このお店も奥さんが相談に乗ってくださいました。近所の人達ですぐ満員になるお店なので、是非予約して行ってください。

稚加栄・中岡 <明太子>

いずれも生け簀のある料亭。この二軒の明太子は唐辛子の具合が絶妙で、無添加のため化学調味料特有のしびれるような辛さは全くありません。以前は空港にも売っていたのですが、最近は博多のデパートでもあまり見かけないのでお店に直接行って買ってください。

吉田 <鯛茶漬>

天神、アクロス福岡の向かい側の路地を入ったところ

鯛の刺身が独特のたれに絡めてあり、出てくるために一瞬食べ方に躊躇するメニュー。お昼は皆、鯛茶しか頼んでいないので座れば鯛茶が出てくるお店です。食べ方は、お店の人のよいおばちゃんに聞いてください。

関西地区同窓会レポート

久米 恵祐(部19期卒)

(株)Add都市建築事務所

皆様、ご無沙汰しております。久々の関西レポートを提出させていただきます。

非常に暑かった(当方、関西では)夏の終わりを告げる様な雷雨が、今降りしきっています。本当に、我々を取り巻く経済と言い気候と言い、異常な状態が続いている昨今で、私は悪戦苦闘の毎日ですが、皆様におかれましては如何でしょうか。

さて、以前、8期の加藤氏より築理会へ関西地区の理大OBの集まりについての情報を頂いていた件で、私は昨年の初めに、加藤氏へ連絡を取らせて頂きました。そこで、工学部1期の若林氏、同3期の広谷氏、理工学部16期の萩野氏らを中心に、関西地区の工・理工学部の建築・土木学科のOBの集まりが平成8年11月8日に開催された事を知りました。私は、遅れ馳せながら、第2回目の平成10年2月26日の集まりより参加させて頂き、且、その時の提案で、月1回のサロンの集まり(定例会・毎月第4木曜日)を行う事となりました。場所は、いずれも若林氏が会員となられている関西文化サロン(大阪梅田の阪急グランドビル19F)で開催しました。

ここで特記すべきは、この集まりを単なる親陸会的なものにとどめず、毎月の集まりには各出席者がテーマを持ってスピーチをする、又、継続しての存続を目指している事です。但し、テーマは、難しく考えず各自自由に設定することになっておりますので、是非とも未だ出席されていない方も、ご気楽にご参加ください。

尚、7月6日には、工学部7期卒の辻江氏(株)大林組)のご配慮により、同社が開発し神戸市灘区日出町の現場で使用している「RC自動化建設システムBIG CANOPY」の現場見学会を催して頂きました。又、この秋の10月21日(水曜日)には、観月会を催します。詳しくは下記の所までご連絡下さい。

関西在住のOBの方々の、多数のご参加をお待ちしております。

記

関西地区理大同窓会事務局：萩野設計工房(萩野)

TEL：06-316-1577

FAX：06-354-0410

会員の活躍

1998年日本建築学会優秀修士論文賞

計画部門

小林 由佳(部17期、修士・鈴木研)

「要素と配置構成からみたイラン建築水空間秩序及びカナート水路との関係」

*コンペ受賞者等は、次回以降に掲載します。

インフォメーション

98年度 下半期「築理会 研究セミナー」
第2回 10/24(土)
直井 英雄 先生 (東京理科大学教授)
「長寿社会と日常災害」

第3回 11/14(土)
寺本 隆幸 先生 (東京理科大学教授)
「制振構造の可能性」

場 所：理窓会館3階会議室
(03-3260-0725 飯田橋駅徒歩5分)
時 間：17:00~19:00
参加費：一般:2000円 同窓会員:1000円
学 生：無料(受付は当日会場で)
問合せ：東京理科大学・小泉まで
03-3260-4271 内3482

OBと語る会
「いま建築界は～建築学科OB・OGにきく」
昨年に続き、就職を控えた後輩たちにOB・OGとしての立場からアドバイスをする会を開きます。是非参加して実社会での経験や現状を話してあげて下さい。

日 時：11/28(土)15:00~17:30
場 所：理窓会館3階会議室

築理会ホームページ開設
<http://www.chikurikai.org/>
かねてより準備を進めておりました築理会ホームページが開設されました。これからどんどん内容を充実させていきますので、ブックマークをお忘れなく。

来年度総会日程
日 時：1999年3/17(水)
18:30~総会 19:00~懇親会
場 所：理窓会館3階会議室

休刊のお知らせ(編集後記)
座談会記事中にもありましたが、会費納入状況が思わしくない事から、年4回発行の会報も今年度最終号の発刊が不可能となりました。振込用紙を同封いたしますので、何卒会費納入にご協力お願いいたします。(築理会常任幹事会)

築理会報98秋号
98年9月発行 Vol.23
編集長：伊谷峰
編集委員：森清、伊藤学、安達功、渋川克也、
諸岡伸幸、中川信浩、平賀一浩
印刷発送：グローバルシステム株式会社

平成10年会費納入のお願い

現在、平成10年度の会費の納入をお願いしております。未納の方には振込用紙を同封しておりますので、お振り込み下さい。

今後のさらなる築理会発展のためにご協力をお願いします。

年会費 5,000円
口座名 築理会
郵便振替 00110-5-171952
銀行振込 東京三菱銀行神楽坂支店 普通4335597

募集します!

会報委員会では、築理会報の各コーナーへの記事を募集しています。どんな些細な情報でも首を長くしてお待ちしております。また、建築にこだわらず、おいしい料理の作り方や、うまいラーメン情報、あなたの楽しい旅行記、その他の記事・情報、また、はみだしチクリにもどんどんお寄せください。

築理会あてFAXにてお知らせください。

データ確認カード返送のお願い

住所、職場、部署等に変更のございます方は、下記データ確認カードにご記入の上、築理会事務局までご返送下さいますようお願い致します。

最新データに基づいた名簿作成、編集のためご協力をお願い致します。

送付先：建築学科事務室内・築理会事務局
名簿作成委員会

築理会員データ確認カード		記入日：19 / /
ふりがな：	卒業年	年3月
名前： (旧姓)	(期 研)	
	<input type="checkbox"/> 部	<input type="checkbox"/> 部
ふりがな/勤務先：		
ふりがな/部署・役職：	TEL	
	FAX	
電子mail：		
現住所：(〒)	TEL	FAX
電子mail：		
現住所以外の安定的な連絡先、具体的な連絡方法及びTEL：		
所属学会	<input type="checkbox"/> 日本建築学会	<input type="checkbox"/>)
<input type="checkbox"/>)	<input type="checkbox"/>)	<input type="checkbox"/>)
通信欄		

お手数ですが拡大コピーをしてFAXにてお送りください。